

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和7年度技術情報第17号（チャ、カンキツのチュウゴクアミガサハゴロモ）について（送付）

チャ、カンキツのチュウゴクアミガサハゴロモについて下記のとおり取りまとめましたので、周知及びご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ (<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshu/index.html>) にも掲載しています。



令和7年度 技術情報第17号

北薩地域のチャ、カンキツでチュウゴクアミガサハゴロモの発生が確認されています。本種による農作物への経済的な被害報告はありませんが、発生園では、産卵された枝の除去に努めましょう。

- 1 農作物名 チャ、カンキツ
- 2 病害虫名 チュウゴクアミガサハゴロモ

3 発生状況等

- (1) 令和7年6月に北薩地域のチャで、在来のアミガサハゴロモと形態的な特徴の異なる本種の発生が認められた(図1, 2)。その後、同地域の別のチャや温州ミカン、庭先のカンキツやクワ、カシ等で発生が認められた。
- (2) カンキツでは直径3mm前後の硬化した細い下垂枝や葉の中肋を、雌成虫が鋭利な産卵管で表皮を削って産卵するが(図3, 4)、傷口は殆どがコルク化する。チャでは幼木に寄生が集中するが、新梢への産卵は確認されていない(図5, 6)。
- (3) 本種はアオバハゴロモと混発している事例も多いことから、同様の環境で生育するものと考えられる。

4 発生生態および被害

- (1) 国内での発生は令和7年10月2日現在で、17都道府県で確認されており、チャの幼木では本種の排泄物によるすす病の発生、カンキツでは硬化した細い枝への産卵以外に、具体的な被害は報告されていない。
- (2) 成虫は在来のアミガサハゴロモと形態が類似しており、体長は7~10mm、前翅長14mm程度で、前翅は茶褐色から鉄さび色であり、前翅前縁中央部に三角形~扁平な半円形の白斑が存在するが、白斑の形状には個体差がある。幼虫は白色で、腹部から白い糸状のロウ物質の毛束を広げる。また虫体の背面に小黑点を有し、翅芽は褐色である。冬季は卵の形態で越冬する。
- (3) 本種は広食性で、ツバキ科(チャ)や、果樹ではバラ科(リンゴ、モモ、ナシ)、カキノキ科(カキ)、ミカン科(温州、キンカン)、ツツジ科(ブルーベリー)、ブナ科(クリ)、クワ科(イチジク、クワ)、モクセイ科(オリーブ)など、多くの植物で寄生が確認されており、発生に注意が必要である。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 無防除の園地や庭先の植栽樹では、秋季まで発生が継続するため多発しやすいが、慣行防除が行われる園地では少ない。
- (2) 令和7年8月末現在、本種に対してチャ、カンキツでの登録を有する農薬は無いため、摘採や摘果・芽かき作業等の際に、白いロウ物質で覆われた産卵枝を除去し、個体数を減らす。



図1 チュウゴクアミガサハゴロモ成虫（左）と産卵前の雌成虫



図2 チュウゴクアミガサハゴロモ幼虫



図3 カンキツ枝の産卵痕（下垂した細枝）

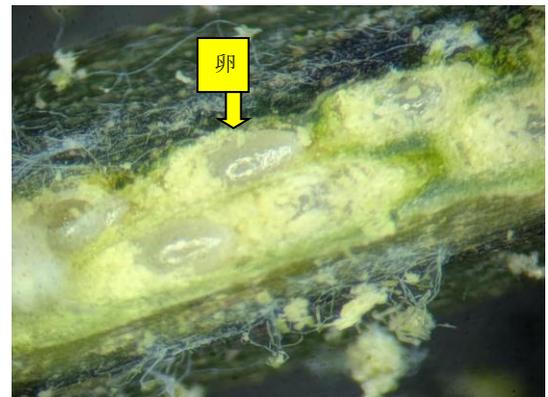


図4 枝の片面に2列に埋め込まれた卵（毛状のロウ物質と樹皮を除いた状況）



図5 チャ幼木で発生したすす病



図6 チャに寄生した幼虫